

学校教育目標	○ 助け合う子 ◎ 考える子【重点目標】 ○ きたえる子	【目指す学校像】	○児童が、「学びがい」「やさしさ」「元気」を感じる学校 ○児童が、「自分らしさ」を発揮し、力強く前に進む学校
		【目指す児童・生徒像】	○すすんで学び、自分を高めようとする子ども ○自分を大切に、共に伸びようとする子ども ○心と体に関心をもち、たくましく生きようとする子ども ○自分のよさを自覚し、自己決定ができる子ども
		【目指す教師像】	○温かな教育をする教師 ○子どもを第一に考えて思考する教師 ○共成小の教育に貢献する教師 ○マネジメントできる教師

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	取組の進捗状況	今後の方向性
確かな学力	児童が自ら考え、活躍することができる、「分かる」「できる」を言葉で表すことができるよう、学習過程の改善を図る。	すべての児童が活躍できる、「分かった」「できた」喜びを実感できる授業をつくる。	「振り返り」の視点を示して、時間を確保し、児童が変容を実感できる授業を展開する。	4   振り返りの充実・・・90%以上	2	4   毎日「できた・分かった」と思った・・・90%以上	3	学習過程の中に「振り返り」を位置づけることはほぼ全ての教師ができています。しかし、単元や授業ごとにねらいに即した視点を示すことができていない。	児童が自分の学びを実感できる視点を与えていく。校内研究や研修を通して教師間でその方法を改善していく。
				3   振り返りの充実・・・80～90%		3   毎日「できた・分かった」と思った・・・80～90%			
				2   振り返りの充実・・・70～80%		2   毎日「できた・分かった」と思った・・・70～80%			
				1   振り返りの充実・・・70%未満		1   毎日「できた・分かった」と思った・・・70%未満			
豊かな心	児童が安全に、安心して通うことができる、保護者が安心して通わせることができる信頼される学校づくりを推進する。	自他を大切にしている気持ちを言葉で伝え合う場面を作り、互いに尊重し合う態度を育む。	タブレットなどICTを効果的・効率的に活用し、個に応じた指導を充実させる。	4   ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・90%以上	3	4   授業が分かりやすい・・・90%以上	4	学校全体の財産として、タブレットなどの機器やコンテンツ活用方法のストックは確実に増えており、児童も主体的に学習に活かしている。個の教員や学年によりスキルや頻度に差がある実態もある。	教員誰もがICT機器を有効に活用できるように、校内での授業公開や研修会を実施していく。個別最適化された学習機会を保障していく。
				3   ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・80～90%		3   授業が分かりやすい・・・80～90%			
				2   ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・70～80%		2   授業が分かりやすい・・・70～80%			
				1   ICTを活用し、個に応じた指導ができた・・・70%未満		1   授業が分かりやすい・・・70%未満			
健やかな体	児童が自分の心と体の健康に関心をもち、健康の保持・増進に関する意識を高め、よりよい生活習慣や食事について考え実践する態度を育む。	「いじめ問題」はいつでも誰にも発生し得ると認識し、未然防止と早期対応に努める。	児童のサインをキャッチし、情報共有の日常化を図り、組織的対応を行う。	4   「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・90%以上	4	4   「あいさつ・返事」ができる・・・90%以上	4	6年生が自主的に朝の挨拶運動をするなど、積極的に挨拶する児童が増えている。また、PTAによる挨拶運動も今年から復活し、保護者の方々にもご協力いただいている。	学校だけでなく、家庭・地域ぐるみで「あいさつ」を通して、安心・安全な環境づくりをしていきたい。
				3   「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・80～90%		3   「あいさつ・返事」ができる・・・80～90%			
				2   「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・70～80%		2   「あいさつ・返事」ができる・・・70～80%			
				1   「あいさつ・返事」の指導に取り組んだ・・・70%未満		1   「あいさつ・返事」ができる・・・70%未満			
輝く未来	多くの人と、かかわり合い、学び合い、認め合いのある温かな集団の中で、児童が自分のよさを実感し、自信をもって、自分らしさを発揮できる教育活動を推進する。	特別活動の充実を図り、児童が主体的・自己決定し、行動する力を設定する。	「元氣アップガイドブック」の活用、「グッドモーニング60分」の取組により、児童自身の意識化を図る。	4   元氣アップガイドブックを活用した・・・90%以上	1	4   規則正しい生活習慣を意識している・・・90%以上	2	グッドモーニング60分の取組を通じて、生活習慣の実態を把握し、指導に役立てることができた。一方「元氣アップガイドブック」の活用が不十分であった。	学級での活用はもとより、家庭にも呼びかけながら、よりよい生活習慣を実践する態度を身に付けさせていく。
				3   元氣アップガイドブックを活用した・・・80～90%		3   規則正しい生活習慣を意識している・・・80～90%			
				2   元氣アップガイドブックを活用した・・・70～80%		2   規則正しい生活習慣を意識している・・・70～80%			
				1   元氣アップガイドブックを活用した・・・70%未満		1   規則正しい生活習慣を意識している・・・70%未満			
輝く未来	児童同士が協働し認め合う場を意図的に設定し、自己肯定感・自己有用感を育む。	SOSの出し方や心のもち方についての学習を継続し、相談できる体制・人間関係をつくる。	心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・90%以上	4   心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・90%以上	4	4   困ったときに相談できる・・・90%以上	2	教員が心の指導の取り組みことで児童が他者のためになる言動をしようとする気持ちが高まった。また、学校外の機関の相談窓口を家庭配布したり、ホームページに掲載することで、さらに相談の窓口を広げた。	児童小さな変化にも気付けるようになる言動をしようとする気持ちが高まった。また、学校外の機関の相談窓口を家庭配布したり、ホームページに掲載することで、さらに相談の窓口を広げた。
				3   心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・80～90%		3   困ったときに相談できる・・・80～90%			
				2   心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・70～80%		2   困ったときに相談できる・・・70～80%			
				1   心のもち方を指導し、教師から声をかけた・・・70%未満		1   困ったときに相談できる・・・70%未満			
輝く未来	児童が安心して「自分らしさ」を発揮できる望ましい集団作りを目指す。	年2回のQUを活用し、学級や児童個々の状況に応じた指導を展開する。	望ましい集団作りを図る取組を行った・・・90%以上	4   望ましい集団作りを図る取組を行った・・・90%以上	3	4   学校生活が楽しいと感じている・・・90%以上	3	1学期のQU実施を行い、夏には担任がその結果を分析した。また専門家からの指導をいただき、学級経営に生かしている。児童が楽しいと感じる環境づくりを目指している。	今後2回目のQUを実施し、各担任の取り組みを検証していく。また、学校全体での組織的な取り組みも検討していく。
				3   望ましい集団作りを図る取組を行った・・・80～90%		3   学校生活が楽しいと感じている・・・80～90%			
				2   望ましい集団作りを図る取組を行った・・・70～80%		2   学校生活が楽しいと感じている・・・70～80%			
				1   望ましい集団作りを図る取組を行った・・・70%未満		1   学校生活が楽しいと感じている・・・70%未満			